近代常滑の陶彫

陶の仏

Ceramic Buddhist Sculptures Created in Modern Tokoname

柴山清風《普賢菩薩坐像》1935年、宗興寺所蔵　撮影／佐々木香輔

会　期
2023年
9月16日〈土〉
↓
2024年
2月25日〈日〉

開館時間：10:30～19:30　入館料：無料
場　　所：髙島屋史料館 TOKYO 4階展示室
休　　館：月・火曜（祝日の場合は開館）
　　年末年始（12月30日～1月2日）

主催：髙島屋史料館 TOKYO
監修：君島彩子（宗教学者、和光大学講師）
協力：小栗康寛（とこなめ陶の森資料館）
展示デザイン：伊東鷹介（スタジオキノコ）
グラフィックデザイン：泉美菜子（PINHOLE）
担当学芸員：海老名熱実（髙島屋史料館 TOKYO）

髙島屋史料館
TOKYO

陶の仏

近代常滑の陶彫

冨本梅月《文殊菩薩像》1912～1926年頃
とこなめ陶の森資料館所蔵，半田市立博物館画像提供

柴山清風《弾除け観音》1934年
柴山寛所蔵，半田市立博物館画像提供

「陶彫（とうちょう）」とは、まさしく字のごとく陶を素材とする彫刻のことです。

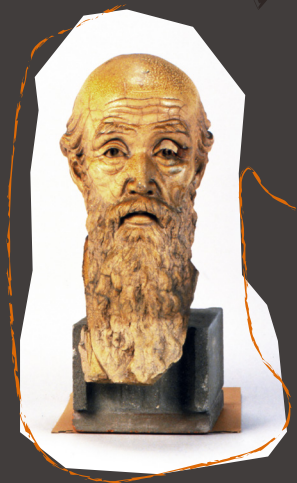
常滑焼というと、朱泥の急須や土管などを想起する人が多いでしょう。しかし、あまり知られていませんが、平安時代末期から続く常滑焼の歴史には、近代に入ると西洋彫刻の技術・知識が伝播し、結果として数多くの陶彫が生み出されることになりました。

日本にまだ「彫刻」という概念が浸透していない時代に、工部美術学校においていち早く専門的な美術教育を受け、西洋彫刻を学んだ内藤鶴嶺（1860～1889）や寺内半月（1863～1945）らは、西洋彫刻そのものの社会的地位が確立していない困難な時代に、縁あってたどり着いた常滑美術研究所の教員の職を通して、常滑の地に西洋彫刻の技法を広めていきました。同時に、彼らは常滑で窯芸に出会い、自らの陶作品にも彫刻の概念を精力的に取り入れていきました。例えば石膏型を採用することで、従来の木型や素焼き型では困難な複雑な浮き彫り装飾の表現を可能にしたり、また塑像法や人体解剖学といった西洋美術の知見を応用することで、陶で作る彫刻作品の新たな可能性を探求しようとしました。こうした西洋彫刻の思想が弟子から弟子へと引き継がれ、常滑の陶彫に多大な影響を与えたことの痕跡は、内藤と寺内の両名から教えを受けた平野霞裳（1873～1938）作の《鯉江方寿翁像頭部》（1913年）などにも顕著にあらわれています。

今回、そのひとつの到達点として取り上げるのが、「観音像の清風さん」とも呼ばれていた柴山清風（1901～1969）であり、彼が制作した陶彫の仏像作品です。清風は平野の弟子で、戦時中に《千体観音（救世観音）》（1934年）や《弾除け観音》（1934年）などを多数制作し、無償配布したことで知られています。生涯をかけて、常滑の地で陶の仏の創作活動を続けた彼の作品や活動には、「職人」という一言では決して片付けられない作家性と魅力が詰まっています。

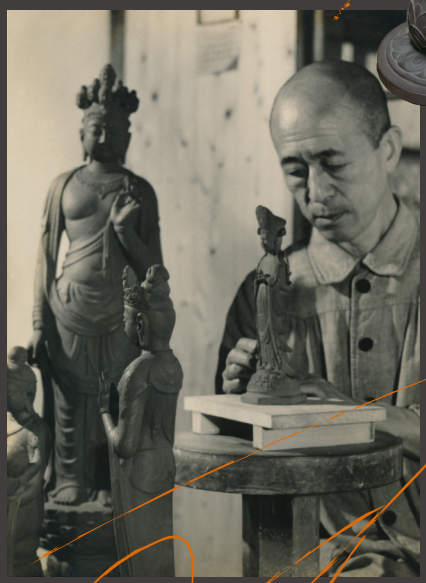
本展では、常滑焼の歴史に西洋彫刻の近代的技法が取り入れられ、それが見事に昇華されていくさまを概観することで、そのハイブリッドな陶彫の興味深い歴史をご紹介いたします。そして同時に、近代常滑の陶彫と仏像についての再考も試みたいと思います。仏像というのは、何も飛鳥時代や中世の古い時代に制作されたものだけに限ったものではないということ、近代に入って制作された新しい仏、それも木彫ではなく陶彫からなる仏にも独特な面白さがあるのだということを感じていただければ幸いです。

柴山清風《十一面観音菩薩像》
1945年頃，大善院所蔵



平野霞裳《鯉江方寿翁像頭部》1913年
とこなめ陶の森資料館所蔵，半田市立博物館画像提供

柴山清風《釈迦誕生仏像》
1945 年頃，大善院所蔵



《千体観音》制作中の柴山清風，1952年，柴山寛所蔵

鯉江方寿《玉織姫座像》1844年
とこなめ陶の森資料館所蔵，半田市立博物館画像提供

片岡陶楽《多聞天立像》1925～1950年頃
大善院所蔵，三澤武彦撮影

高島屋史料館 TOKYO
東京都中央区日本橋
2-4-1
日本橋髙島屋 S.C.
本館4・5階
＊5階旧貴賓室は、
対面でのイベント開催時
のみ開館します。
https://www.takashimaya.co.jp/shiryokan/tokyo/

X（旧 Twitter）：@shiryokantokyo
Instagram：@takashimayashiryokantokyo

●講演会開催のご案内

会期中、本展を監修した
君島彩子氏によるトークイベントを
予定しています。
詳細が決定次第、
当館 HPでご案内します。

●アクセス

○JR「東京駅」
八重洲北口から徒歩５分
○東京メトロ 銀座線・東西線
「日本橋駅」直結
○都営地下鉄 浅草線
「日本橋駅」から徒歩４分

〈ご注意〉
駐車場は大変混雑しております。
お車の出庫には非常に時間がかかるため、
ご来館の際は公共交通機関の
ご利用をお願いいたします。